

深読み

長内 智

(株)大和総研  
金融調査部  
主任研究員

# 証券投資の羅針盤

## 7 賢人ウォーレン・バフェットの日本株買い

### オマハの賢人の来日

#### ●投資家として世界一の富豪

2023年4月、日本の株式市場では、米著名投資家であるウォーレン・バフェット氏(92歳)の来日が大きな話題となりました。

投資にこれまで関心がなかった人などには、あまり知られていない人物かもしれません。しかし、投資の世界では、「投資の神様」や「伝説の投資家」と呼ばれており、現在、世界で最も有名な投資家です。また、米フォーブス誌の2023年版の世界長者番付において、世界第5位の富豪であり、投資家に限ると、圧倒的な世界第1位となっています。

バフェット氏は、本拠地である米国ネブラスカ州オマハにちなんで、「オマハの賢人」(英語では、Oracle of Omaha、もしくはSage of Omaha)と称されることもあります。ちなみに、オマハは、バフェット氏の出生地かつ現在の居住地であり、さらに同氏が会長兼CEO(最高経営責任者)を務める投資会社パークシャー・ハサウェイの本社所在地です。

#### ●長期的に高い運用成績

投資家としてバフェット氏が高く評価されている理由の1つとして、同氏が代表を務め、かつ大株主でもあるパークシャー社の株価が長期間にわたり、代表的な株価指数より高い平均成長率を誇ってきたことが挙げられます。

パークシャー社の資料によると、米国の代表

的な株価指数であるS&P500と同社株価の1965年から2022年までの年平均成長率は、前者が9.9%であるのに対し、後者は19.8%となっています。

長期的にS&P500を大幅に上回る成長率を実現してきたことは、投資の世界において驚異的と評価されており、その結果として、バフェット氏は巨額の富を築くことができたのです。

今回のバフェット氏の来日が注目されたのは、長期的に高い運用成績を誇り、「投資の神様」とも呼ばれる同氏が、日本株への追加投資を検討する意向を示したことによります。

### バフェット氏の追加投資

#### ●2020年の商社株買い

バフェット氏の基本的な投資スタイルは、優良企業の株式を割安な価格で買い、それを長期にわたって保有し続けるというものです。例えば、1980年代に大量購入した米コカ・コーラ社株を現在まで持ち続け、高い投資リターンを得ていることがよく知られています。

本格的な日本株投資は、2020年の大手商社への投資が初めてです。パークシャー社は、同年8月31日(日本時間)、子会社を通じて、5大商社である三菱商事、三井物産、伊藤忠商事、住友商事、丸紅の発行済み株式を、それぞれ5%超取得したと発表しました。

また、発表資料の中で、長期にわたって投資を続けることや、9.9%まで買い増す可能性が

あることにも言及しました。

パークシャー社による株式大量保有が判明してから、5大商社の株価は大幅に上昇しました。その後の資源高の追い風もありますが、発表直前の2020年8月28日以降、丸紅は3倍以上、三井物産と三菱商事は2倍以上になり、他の商社も日経平均株価やTOPIX（東証株価指数）の上昇率を大きく上回っています（図表）。

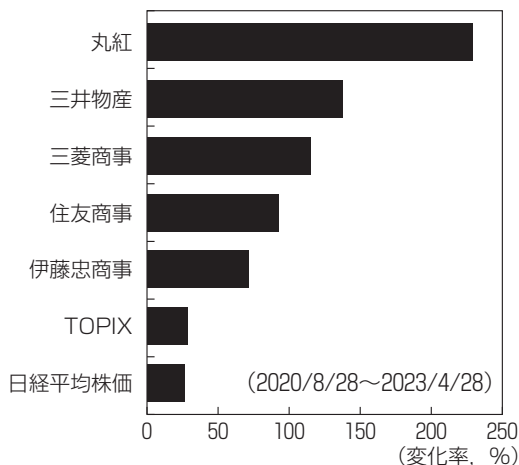
●世界の投資家も注目

各種報道によると、バフェット氏は、今回の来日の際、5大商社株の保有比率を7.4%に高めたことを明らかにし、さらに5大商社以外の日本株にも関心を示したとのことでした。

日本企業の中には今後も高い成長が期待される企業がいくつも存在します。バフェット氏は、その中で割安と評価した企業に対し、新たに投資を行う可能性があります。

また、今回の来日を機に、今後、日本株が世界中の投資家の注目を集めることになるかもしれません。実際、5大商社株への追加投資が報道された週に、海外投資家は日本株を1兆494億円（現物株）と大幅に買い越しました。個人投資家も、こうした「バフェット効果」の動向を注視していくことが重要だと思います。

【図表】バフェット銘柄の成績



(出所) 日本経済新聞社、Bloombergより大和総研作成

相場の格言

人の行く裏に道あり花の山

●バフェット流に通じる格言

この格言は、「人の行く裏に道あり花の山 いずれを行くも散らぬ間に行け」という、千利休が詠んだともされる和歌に由来します。

その意味は、株式市場で大きな利益を得るためには、多くの投資家と同じ行動を取るだけではなく、反対の行動を取ることも大切というものです。相場の格言の中では、非常に有名であり、かなり頻繁に取り上げられます。

具体的な例としては、財務状況や収益力が優良であるにもかかわらず、投資家の注目度が低く、安値圏で低迷しているような企業の株式を購入し、将来的に高い利益を得るというケースが該当します。

この教えは、バフェット氏の投資スタイルに通じるものがあるといえるでしょう。2020年の5大商社株への投資は、まさに「花の山」の好事例と捉えることができます。

●投資初心者の注意点

株式投資を行う際、この格言の教えが大切ということに全く異論はありません。しかし、筆者の過去の経験を踏まえると、投資初心者には、少し注意しておきたい点もあります。

それは、一般に、プロの投資家に比べて情報量が少なく、分析力も劣ると考えられる投資初心者が、多くの投資家の気づいていない「花の山」を見つけることは、そう簡単ではないという点です。また、結果的に「花の山」を見つけていたとしても、実際の株価は、何らかの好材料が出るまで安値圏で推移することも多くあります。その間、堅調に株価が上昇している他の銘柄に目が移り、あまり利益が出ていない段階で売却してしまいがちです。

初心者のうちは、「花の山」を見つけることにそこまでこだわらなくてもよいと思います。